

第42回

卒業式

高校阿倍野新聞

発行所
大阪市阿倍野区阪南
町一丁目30番34号
大阪府立阿倍野高校
新聞部
編集責任 慎 富恵

新入部員募集

輝ける未来へ

今日、それぞれの目標に向かって、スタートをきられた皆さん、御卒業おめでとうございます。卒業にあたって、校長先生や教頭先生をはじめ、学年主任、各クラスの担任の先生方から、お祝いの御言葉をいただきました。



今、たくましく
生きる習性を

校長 三星行雄

42期生の皆さん、卒業おめでとう。今、生涯教育の時代を考えれば、新たな社会への入学です。今までのような全員の教員が、いりませんが、各自が進むものとする道において、固守のものを求め、自らのペースで、自らの目標に向かって歩まねばなりません。その間絶えず自らがその到達度を点検しながら、また自らを評価しなければなりません。その道においては眺望のきく楽しいところもあれば、また一転して暗やみの険しい道もあるでしょう。右にするか左へ行くか岐路に立つこともあるでしょう。こんな場合には人は常として楽な道を選ぶのが人情でしょう。



四つの心を
大切に

教頭 辻村昭三

四十一期生の皆さん、卒業おめでとう。さあ今日からは、これまでの甘え・ひ弱さ・無気力をさりと捨て

しかしここで考えてほしいことがあります。人生はやはり前向きな生き方が大事です。後の楽しみのために今何かが苦しいに立ち向う生き方が大切で、そこでは注意すべきは日頃の生活態度、即ち習性です。楽ばかりを求めず、困難にひるまず安易に墮さず、人生を強くたくましく生きることをできる習性を若いときから身につける心がけが大切です。この若い時代のこの蓄積は必ず皆さんののちの人生に役立つことでしょう。健康に留意して、頑張ってください。

三年学年主任 倉本 優先生

情報が氾濫している現代社会の中では、ともすれば自己を見失いがちである。二兎を追う者は一兎をも得ずという。自から選んだ人生を充実したものにするために最善をつくそう。そこには平凡であっても満足感が得られ、その間に次の飛躍に備えてのエネルギーが蓄えられてくるものだ。だから、人生は着実な足取りで前進してゆくものだと、四十一期生諸君の活躍を期待しています。



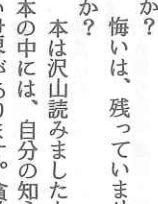
一組担任
大西三津子先生

卒業おめでとう。今日をむかえた皆さんのそれぞれの感慨の中で、共通しているのは、今から踏み出す新しい生活への不安と、それ以上の期待ではないでしょうか。この先いろいろな事に出会うでしょうが、時々立ち止まって、今日皆さんが感じている真新しい期待希望を思い出して下さい。お元気で。



二組担任
藤原宏子先生

卒業おめでとう。新しい門出を迎える今、次へのステップとして高校生活を振り返って見て下さり、心身ともに成長しましたか？悔いは、残っていませんか？



三組担任
岡田昌訓先生



四組担任
渡辺敏彦先生

三年生の皆さん、卒業おめでとう。入学当時、子供っぽかったのに、もう卒業かと思う



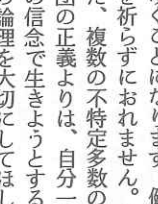
六組担任
小田原紀恵子先生

垂れ髪に雪をちりばめ卒業。西東三鬼(吉兆)だったという雪は降るでしょう。時代の大きな転換期に青春を生きたあなた達。人間としての誇りを失わないために、そして他人を手助けして見ることのない人間であるために、視野を広げつつ、自分を磨き続けてほしいと思います。そして他人の内面の自由を尊重する人間であってほしいと切に願っています。



七組担任
内田健治先生

卒業おめでとう。自分から今まで以上に自分の才覚と責任で生きてゆくことに努めます。健康を祈らずにおられます。また、複数の不特定多数の集団の正義よりは、自分一人の信念で生きようとする個の論議を大切にしたい。これはまだ高校を卒業したばかりのみなにはちょっとむづかしいことであるかも知れませんが。



八組担任
木村 茂樹先生



九組担任
榎尾 守康先生

うれしくもあり、悲しくもある卒業が、いつまでも心に残る思い出となってほしいと願いつつ、今自分の過去を振り返ってみると、そんなに鮮烈な出来事として、よみ返ってこないのは、どうしてだろうか。あんなに別れを惜しんだ人達の顔も年を経るに従って輪郭がぼやけていくのが残念でならない。君たちにとって思い出がいっぱいでも心に残ることを祈ります。



十組担任
桑田福泰先生

42期生の皆さん、卒業おめでとう。正に光陰矢の如しの三年間ではなかったかと思えます。私にとってもあつという間の三年間で、年を重ねるごとに、月日の流れは早まるような感じがします。西暦二〇〇〇年まであと10年。21世紀にむけて時代に流されず、時代を担う大人になるべく、人間性を結実させてください。



十一組担任
桑田福泰先生

とうとう卒業ですね。今何かがうれいような、さびしいような複雑な気持ちです。通俗的な言い方ですが、出会いがあれば、必ず別れがある。その通りです。すべてが「うつろい」の連続です。その「うつろい」の中で、人は自分にとって大切なものは何かをさがしているのです。君たちはまだ高校を卒業したばかり、人生はこれからです。「うつろい」の中で大切なものを見つけてください。

針末

私の生きている時代は何と平和なんだろう、と常々思っていた。平和・平凡・平穩・平静。そして普通。だけれど本当は、そんな時代など、普通などありえないのだ、と思い始めたのはつい最近のことだった。天安門・ベルリンの壁・ルーマニア・ベレストロイカ・・・最近になって、やっと目の前に山積みになれた、社会事件の言葉などが目に入る。しかしそれも、ほんの一片にすぎない。世界では、次から次へと平和でない事件が起きている。だがそれは何故か、私の日常はこんなに平和で、そしてときには退屈さを感じるのである。ああ、そうか、ぬるま湯だ、と思った。私は今、ぬるま湯に浸かっているのだ。世間、という湯気に守られた、高校生というぬるま湯に。そして湯がぬるの外には、社会、という外気が待っている。その外気は暖かいのだろうか、寒いのだろうか。けむる湯気の向こう側に垣間見るだけでは、ほとんど見えない。新聞やTVは、知識を与えてくれるけれど、外気の感想は、誰からも得ることなどできない。じかに空気を、自分の素肌で感じとらなければならぬ。それは何と勇氣がいるんだらう。不用意に裸のまま外気に触れると、風邪をひいてしまう。今、卒業生は、そのぬるま湯からあがるときのだ。風邪をひかないように気をつけて、そしてときどき、ぬるま湯だったけれど、温かく居心地の良かった、高校生活、を思い出し、また引き締めてほしい。在校生の私は、まだぬるま湯から外を眺めている。いつかはあの世界に触れることを不安がって、そして期待して。まあひとまずは、ご卒業おめでとうございます。先輩方。

本年度卒業生の進路決定状況

(進路指導部)

Mシステム技研	一名
韓国外換銀行	一名
九州産交運輸	一名
釘長商店	一名
サトーセン	一名
オペレーション ビジネス	一名
資生堂販売	一名
真生印刷	一名
新日本証券	一名
新洋海運	一名
住友クレジット	一名
全国土建健保組合	一名
ダイエー	二名
太陽酸素	一名
中央システム メーシオン	一名
統計サービス	二名
東洋印刷製本	一名
ドライバースタンド	一名
東洋信用金庫	一名
ナニワ計算センター	一名
南海サウスタワー ホテル	一名
南海電鉄	一名
二加屋金物	一名
日晴金属	一名
日東精工	一名
日本情報サービス	二名
福寿信用組合	二名
三田工業	一名
元町更科	一名
ロートレアモン	一名

教諭 岡崎美千雄

ところが、スキー修学旅行では、その大切なことが現状では絶対に出来ないのです。というのは、修学旅行にふさわしいスキー場のホテルは予約でいっぱいである以上、つまり、参加する生徒が入学する前に決定しなければならぬのです。我々は、「生徒の意見を聞く」「スキー修学旅行にする」「か、それとも、スキー修学旅行をあきらめて生徒の意見を聞く」かの選択をせまられるのです。非常に残念なことです。

このような問題を抱えながらも、80%近い満足度を得ることの出来るスキー修学旅行は、それ以上のものが見つからない現在、スキーに満足できない生徒が少

てみたさんにとわたりて思

現在の安倍校生に『安倍

校舎を
大切に使おう

校を訪れたPTAの方などにどのような印象をあたえるだろうか。あと、第一グラウンドのプレハブやトイレでタバコを吸うのも同じことだ。

こういうことが世間に出ると、この阿倍野高校が悪く言われるのである。

では校内美化運動を行ううえで、私は感心しました。前にも書いたように、現在校内はたいへん汚れていて、ジュースがこぼれてその部分がだんだん汚れてくる。それをふせぐためにも、食堂の人たちは、廊下のあるところにゴミ箱を置いたり

さんの事を学ぶ学校を、
分たちの手で汚したりす
のではなく、美しく、す
らしい学校にする事でけ
いのかと思う。

準優勝 六組

はないだろうか。

知識 20% 以上	知識 50% 以上	知識 80% 以上	知識 60% 以上	知識 100% 以上	知識 70% 以上	知識 40% 以上
専門 F	専門 C	大学 A	推薦 P	公募 T	短大 Z	専門 Q

高専学校
義希教育

うことは、その時々を一生懸命に生きてやる証拠だと思えます。これから新しい世界へ足を踏み入れることになるでしょうが、食わず嫌いをなるべく少なく、何事もまづ実践することが大切ですね。その後、取捨選択し、自分の良き思い出が多くなるように頑張ってください。

実践あるのみ

編年表

永い阿倍高新聞部の伝統のもと、毎年何人かの部員が必死に高校新聞発行をたやすくてなく、活動してきました。一時は年間三回も発行した時期もありましたしかし世の中の活字離れ映像時代を反映して、年と

う一年に一回も発行されない状態にまで至りました。新聞は出なくても、今年も多くの卒業生が本校を巣立ってゆきます。新聞部としては卒業式特集号を毎年発行していることからは是非今年卒業の四十回生にも読んでいただきたいということになりまして、担任の先生をはじめ各教科の先生の生のこもったはなむけの言葉を味わい、卒業生の皆さんのご発展を祈るしだいです。